

記者発表（資料配付）				
月／日 （曜日）	担当 班 課 名	TEL	発表者名 （担当副課長名）	その他の発表 表・配付先
12/21 （木）	高校教育課 高校教育改革班	（直通）078-362-9442 （内線） 5793	清瀬 欣之 （西田 利也）	—

## 「高等学校通学区域検証委員会報告」について

平成27年度再編の通学区域及び全県導入の複数志願選抜に対する評価・検証を行うため、本年5月に「高等学校通学区域検証委員会」を設置した。

このたび、同委員会から「制度は概ね円滑に導入された」とする評価とともに、課題及び今後の方向性を示した報告書が提出された。

兵庫県教育委員会では今後、この報告書の内容にもとづき、必要な改善を図っていく。

### <概要>

#### 1 新通学区域及び複数志願選抜（H29.3実施）の現状

- (1) 旧学区外の高校を受検した生徒の割合は15.3%であり、H27年度比で3.0ポイント増加した。
- (2) 旧学区外の高校を受検した生徒の割合が特に高かったのは、旧神戸第二学区(25.6%)、旧宝塚学区(25.6%)等であり、特に低かったのは、旧北但学区(1.9%)、旧淡路学区(2.0%)等であった。
- (3) 高校の選択肢が増えたことに対して、「よかった」「少しよかった」と感じた生徒は71.9%であり、H27年度比で22.0ポイント増加した。
- (4) 高校選択に際して、高校の魅力・特色を「理由にした」「少し理由にした」と回答した生徒は81.0%であり、H27年度比で4.3ポイント増加した。
- (5) 「高校の魅力・特色を踏まえた進路指導を行うようになった」と回答した中学校長は62.1%であり、H27年度比で12.5ポイント増加した。

#### 2 評価と課題

- (1) 多様な高校選択を確保するための新通学区域導入の評価は毎年上昇している。
- (2) 高校の特色等に対する中学生の関心の高まりを受け、高校の教職員の意識が向上し、魅力・特色づくりがさらに進んだ。
- (3) 複数志願選抜における生徒・保護者の制度理解は進んでおり、実施上大きな混乱は認められない。
- (4) 第2志望及び志願変更は、セーフティーネットとして一定の役割を果たしている。
- (5) 県境及び学区の境や、交通機関の利便性の低い地域等に住む生徒の多くにとっては、学習活動に支障が生じない範囲での選択肢が拡大していない。
- (6) 中学校における生徒・保護者に対する説明会の開催や、高校での複数志願選抜の実施により、教職員の負担が増加した。

#### 3 今後の方向性

##### [短期的な方向性]

- (1) 当面は現在の5学区を維持し、地域ごとの課題解決のための隣接区域の柔軟な設定などの具体的な検討については、地域や高校の意見を踏まえながら進めるべきである。
- (2) 今後も全ての高校で遅滞なく魅力・特色づくりを推進するべきである。
- (3) 当面は現在の複数志願選抜を維持する必要があるが、第1志望加算点や実技検査の妥当性については、引き続き学区ごとの状況を踏まえて検証するべきである。

##### [中長期的な方向性]

- (4) 今後更なる通学区域の再編を検討する場合には、今後の生徒の流動状況など、各地域の状況を踏まえた検証を行う必要がある。

#### (参考)

##### [高等学校通学区域検証委員会委員構成]

委員長：長瀬 荘一（神戸女子短期大学前学長） 副委員長：廣岡 徹（兵庫教育大学元教授）

委員：県立高等学校長6名、市立中学校長7名、市立高等学校長1名、私立学校長2名、  
県立高等学校教員1名、市立中学校教員1名、保護者代表2名、教育委員会事務局2名

高等学校通学区域検証委員会

報 告

平成29年12月

高等学校通学区域検証委員会

# 目 次

はじめに	1
1 通学区域の再編について	
(1) 高校の選択肢について	2
(2) 高校の魅力・特色づくりについて	3
(3) 通学区域にかかる今後の方向性	4
2 複数志願選抜制度の改善について	
(1) 制度の定着について	5
(2) セーフティーネットについて	6
(3) 複数志願選抜制度にかかる今後の方向性	7
高等学校通学区域検証委員会審議経過	8
高等学校通学区域検証委員会設置要綱	9
高等学校通学区域検証委員会委員名簿	10
資 料 編	11

## はじめに

兵庫県教育委員会では、これまで、生徒一人一人の個性や能力を最大限に尊重した教育への転換を図り、新しいタイプの学校の設置や選抜制度の改善に取り組み、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを推進してきた。

このような中で、生徒にとっての多様な選択肢の確保と、高校の魅力・特色づくりのさらなる推進・発展のため、平成27年度入学者選抜から、16学区を5学区に再編するとともに、生徒が各高校の特色を十分理解した上でそれぞれの高校の特色や自分の適性・進路希望等に応じて学びたい高校選抜がより可能となるよう、複数志願選抜が全県で導入された。

高等学校通学区域検証委員会では、平成29年6月2日に開催した第1回委員会以降、通学区域の再編後3回の選抜を終え、「生徒にとって高校の選択肢は広がったか」、「高校の魅力・特色づくりは進んだか」、「選抜制度の理解は深まったか」等の項目について評価・検証を行った。

3回にわたる協議の中で、平成27年度入学者選抜以降の複数志願選抜における志願及び合格状況等を分析するとともに、すべての全日制高校の新入生、複数志願選抜実施校の新入生保護者及び県内の全公立中学校長を対象として3年間実施されたアンケート結果等の分析を行った。

その結果、中学校の情報収集及び進路指導に関する取組や、高校での広報及び入学者選抜にかかる取組など、中学校及び高校双方の多大な尽力により、「中学生・保護者の新しい制度に関する理解が進み、大きな混乱もなく制度が定着しつつある」、「通学区域が拡大したことにより、中学生の高校選択の幅は広がるとともに、高校の魅力・特色づくりは進んでおり、概ね基本方針に示された当初の目的に沿った制度になっている」との基本的な評価とともに、個々の課題等にもとづいた今後の方向性を示す報告書をまとめた。

県教育委員会においては、本報告書における方向性を踏まえるとともに、学習指導要領の改訂や高大接続改革等の全国的な動向、地域ごとの課題にも注目しながら、制度の更なる定着と、生徒にとってより良い制度とするための取組を継続されることを期待する。

## 1 通学区域の再編について

### (1) 高校の選択肢について

#### <現 状> (平成 29 年度の状況)

- 旧学区外の高校を受検した生徒は 3,590 人(H27 年度 2,946 人)であり、複数志願選抜による受検者全体の 15.3%(H27 年度 12.3%)となり、H27 年度と比べて 644 人(3.0 ポイント)増加した。
- 旧学区外の高校を受検した生徒の割合が特に高かったのは、旧神戸第二学区(25.6%)、旧宝塚学区(25.6%)、旧明石学区(25.2%)であり、特に低かったのは、旧北但学区(1.9%)、旧淡路学区(2.0%)、旧北播学区(5.4%)であった。
- 高校の選択肢が増えたことに対して、「よかった」「少しよかった」と感じた生徒は 71.9%(H27 年度 49.9%)となり、H27 年度と比べて 22.0 ポイント増加した。
- 複数志願選抜で入学した生徒のうち、通学に片道 2 時間以上要している生徒は 1 人(H28 年度 2 人、H27 年度 3 人)であった。

#### <評 価>

- ◇ 多様な高校選択を確保するための新通学区域の導入については、受検者や保護者の当初抱いていた不安感の解消とともに評価が上がっている。
  - ・ 第 1 学区では、神戸市、芦屋市、淡路北部地域において、多様な高校選択が進んだが、淡路中・南部地域においては、通学の利便性を考慮して、地元地域の高校に進学する生徒が多い。
  - ・ 第 2 学区では、阪神地域において、多様な高校選択が進んだが、丹波地域においては、通学の利便性を考慮して、地元地域の高校に進学する生徒が多い。
  - ・ 第 3 学区では、南部地域において、旧学区の境を中心に多様な高校選択が進んだが、北部地域においては、南部地域の高校を選択する生徒が年々増加するものの、通学の利便性を考慮して、南部地域から北部地域の高校を選択する生徒は少ない。
  - ・ 第 4 学区では、旧学区の境にあった高校の志望者が増加するなど、特に南部地域において多様な高校選択が進んだ。
  - ・ 第 5 学区においては、地元市町に所在する高校に進学する生徒が多いが、進学連携中学校以外からの合格者数の割合を拡大し、他地域の高校進学を一定可能としたことから、複数の高校選択ができるようになった。
- ◇ 通学区域の再編前には、遠距離通学者が増えるとの懸念もあったが、複数志願選抜入学者のほとんどが 2 時間以内で通学できている。

#### <課 題>

- ◇ 県境及び学区の境や、交通機関の利便性の低い地域等に住む生徒の多くにとっては、学習活動に支障が生じない範囲での選択肢が拡大していない。
- ◇ 中学生が高校を選択する際の積極的な理由となりえる魅力・特色を、明確に打ち出せていない高校がある。
- ◇ 交通アクセス上、通学可能な高校であっても、5 学区の境界が残っているため、学区の境付近では、希望する高校に志願できない状況があることから、今後、隣接区域等の在り方についても検討する必要がある。
- ◇ 通学区域の再編前に比べ、より広範囲から生徒が入学している高校が多く、出身中学校別に見ると少数となる生徒に対し、高校において円滑な人間関係を築くための配慮が必要である。

## (2) 高校の魅力・特色づくりについて

### <現 状> (平成 29 年度の状況)

- 高校選択に際して、高校の魅力・特色を「理由にした」「少し理由にした」と回答した生徒は 81.0% (H27 年度 76.7%) であり、H27 年度と比べて 4.3 ポイント増加した。
- 生徒が高校の魅力・特色について関心を持つようになった、と回答した中学校長は 68.2% (H27 年度 53.0%) であり、H27 年度と比べて 15.2 ポイント増加した。
- 「高校の魅力・特色を踏まえた進路指導を行うようになった」と回答した中学校長は 62.1% (H27 年度 49.6%)、「キャリア教育を充実させた」と回答した中学校長は 29.4% (H27 年度 17.7%) であった。
- 「近隣の高校と情報交換の機会が増えた」と回答した中学校長は 54.5% (H27 年度 52.5%)、「通学区域の再編で通学可能となった高校と情報交換の機会が増えた」と回答した中学校長は 53.9% (H27 年度 55.7%) であった。
- 生徒及び保護者が共通して求める高校の情報は、「入試方法や内容(生徒：41.1%、保護者：50.0%)」、「校風・学校の雰囲気(生徒：26.1%、保護者 33.9%)」、「進学や就職などの状況(生徒：23.7%、保護者：33.6%)」であった。
- 保護者が子どもに対して主に行ったアドバイスは、「通学の利便性(50.0%)」、「校風・学校の雰囲気(44.1%)」、「進学や就職などの状況(40.7%)」であった。
- 高校の説明会等に 1～3 回程度参加した保護者は 61.5% であり、そこで知りたかった情報は、「校風・学校の雰囲気(50.8%)」、「進学や就職などの状況(36.3%)」、「入試方法や内容(28.4%)」、「教育活動上の工夫(28.2%)」などであった。

### <評 価>

- ◇ 高校の特色等に対する中学生の関心の高まりを受け、高校の教職員の意識が向上し、魅力・特色づくりがさらに進んだ。
- ◇ 学区拡大の中で、一部の高校に志願が集中するとの意見もあったが、各地域の高校が魅力・特色づくりを進めるとともに、中学校がそれを踏まえた進路指導を充実させた結果、地域差はあるものの、全県で約 8 割の中学生が旧学区内の地元の高校を選択していることは評価できる。
- ◇ 高校では、旧学区を越えて集まる中学生が交流し、相互に影響しあうことにより、社会性や規範意識の向上など、人格形成の面においてこれまで以上に効果があった。
- ◇ 私学同様、公立高校の教職員が中学校を直接訪問する機会が増え、中・高における教職員間の情報交換がこれまでより容易になった。
- ◇ オープン・ハイスクール等で高校から丁寧な説明を受け、中学生が、高校の特色を考慮して高校選択するようになった。
- ◇ 第 5 学区では、進学連携中学校以外からの合格者数の割合を 18% に拡大したことで、進学連携中学校以外からの合格者数が増加し、各高校の魅力・特色づくりに対する教職員の意識が高まった。

### <課 題>

- ◇ 中学生に多様な選択肢を提供できるよう、高校の魅力・特色づくりについて、他の高校との差異が明確となるような工夫がさらに必要である。
- ◇ 高校における学校説明会等の開催や中学校訪問等の増加が、教職員の多忙化の一因となっている。
- ◇ 中学校では、通学区域の再編に伴いこれまでより多くの高校の情報を収集する必要性が生じるなど、進路指導が難しくなったことが、教職員の多忙化の一因となっている。

### (3) 通学区域にかかる今後の方向性

#### [短期的な方向性]

- ◇ 県境や学区の境付近に居住する生徒の選択肢を広げるためには、さらなる方策を検討する必要があるが、地域ごとの課題が指摘されていることや、中学校及び高校が適切な進路指導の定着に向けてともに努力を継続している状況にあることから、混乱を避けるためにも、当面は現在の5学区を維持し、隣接区域の柔軟な設定などの具体的な検討については、地域や高校の意見を踏まえながら進めるべきである。
- ◇ 高校の特色の違いや交通アクセスの利便性などの状況により、今後も各地域で生徒の流動が進むことが予想されるが、全ての高校で遅滞なく魅力・特色づくりを推進するべきである。
- ◇ 県境や学区の境付近に位置する地域及び高校数が少ない地域においては、生徒の選択肢にある程度制限があることから、各高校において、地域ごとの課題に対応した多様な学びが用意できるよう、引き続き教育課程等を工夫するなど、生徒や地域から求められる高校の魅力・特色づくりを引き続き推進するべきである。
- ◇ 中学校において、生徒個々の興味・関心・適性等にもとづいた進路指導が行えるよう、高校では、特色ある学びの内容や、卒業後の進路の情報などの具体的な情報提供を、より積極的に行うべきである。
- ◇ 通学区域の拡大により、旧学区外の中学校からの入学者を中心に、入学後の円滑な人間関係を築くための配慮が必要であるとの認識のもと、高校では、出身中学校からの情報を得たり、早期に個人面談を実施するなど、生徒の状況を把握することに引き続き努めるべきである。

#### [中長期的な方向性]

- ◇ 今後更なる通学区域の再編を検討する場合には、今後の生徒の流動状況など、各地域の状況を踏まえた検証を行う必要がある。

## 2 複数志願選抜制度の改善について

### (1) 制度の定着について

#### <現 状> (平成 29 年度の状況)

- 高校選択を決定する 3 年生の 12 月時点において、複数志願選抜の内容について、理解できていた生徒及び保護者の割合は、生徒が 97.4% (H27 年度 94.5%)、保護者が 96.8% (H27 年度 95.6%) であった。
- 生徒が、通学区域や入試の内容等の情報を主に得た対象は、「中学校の先生(68.4%)」、「家族・親戚(36.1%)」、「学習塾(25.6%)」であった。
- 保護者が、通学区域や入試の内容等の情報を主に得た対象は、「中学校の先生(60.1%)」、「学習塾(33.1%)」、「高校のオープン・ハイスクール、学校説明会等(29.7%)」であった。
- 複数志願選抜における不合格者数は 2,228 人 (H26 年度 2,239 人(\*)) であり、受検者に対する不合格者の割合は 9.5% (H26 年度 9.1%(\*)) であった。
- 制度変更後の 3 年間に於ける第 5 学区で、進学連携中学校以外の合格者数の割合が 10% を越えたことがある高校は、4 校であった。(豊岡、浜坂、香住、八鹿)

(\* )H26 年度の人数及び割合は、学力検査における「普通科(単位制を含む、氷上西・千種を含まない) + 総合学科」の人数を対象としている。

#### <評 価>

- ◇ 中学校の進路指導及び高校の情報発信等により、選抜制度の理解が進んでおり、実施上大きな混乱は認められない。
- ◇ 第 5 学区における進学連携中学校以外からの入学を認める割合(18%以内)は、進学連携校方式の趣旨を維持しつつ、高校の選択肢を拡げるものとして機能している。

#### <課 題>

- ◇ 中学校では、制度の変更に伴い、生徒・保護者に対し、より丁寧な制度説明を行う必要があったことから、説明会の開催等の負担が増加した。
- ◇ 高校では、複数志願選抜実施校数が増えたことにより、入学者選抜にかかる事務作業量の負担が増加した。
- ◇ 高大接続改革並びに学習指導要領改訂に伴う中高における学びの変革に対応できるよう、選抜に係る評価のあり方については、継続的に検討を行うべきである。



## (2) セーフティーネットについて

### <現 状> (平成 29 年度の状況)

- H26 年度の複数志願選抜で合格した 17,356 人のうち、第 1 志望校に合格した受検者が 15,686 人(90.4%)であったのに対し、H29 年度の複数志願選抜で合格した 21,237 人のうち、第 1 志望校に合格した受検者は 19,420 人(91.4%)であった。
- 学力検査を受検した 26,712 人のうち、第 1 志望を志願変更した受検者は 234 人(H27 年度 324 人)であり、そのうち、単独選抜から複数志願選抜に志願変更した受検者は 56 人(H27 年度 84 人)であった。
- 複数志願選抜で受検した 23,465 人のうち、第 2 志望を志願変更した受検者は 296 人(H27 年度 564 人)であり、その割合は 1.3%(H27 年度 2.3%)であった。

### <評 価>

- ◇ 「その他校」希望を廃止したが、全体の合格率に変化はなく、第 2 志望及び志願変更は、学びたい学校への入学に挑戦するためのセーフティーネットとして一定の役割を果たしている。
- ◇ 「その他校」希望を廃止したことにより、全ての合格者が自ら選択した第 1 志望校または第 2 志望校に入学できるようになり、どの学校へ入学するか分からないという不安感がなくなった。

### <課 題>

- ◇ 複数志願選抜により、旧学区外を含めた 2 校の高校を選択できるようになったことから、中学校では、進路指導において、収集しなければならない情報量が増加するとともに、指導上考慮すべき要素が増えたことから、教職員の負担が増加した。
- ◇ 高校では、複数志願選抜及び高校の魅力・特色等に関する情報提供を行う対象が増えたことから、学校説明会の開催等に係る教職員の負担が増加した。
- ◇ 単独選抜の専門学科から、複数志願選抜の高校に第 1 志望を変更する事例が何例もあり、当初の選択がより適切なものとなるよう、選抜方法の改善を検討する必要がある。

### (3) 複数志願選抜制度にかかる今後の方向性

#### [短期的な方向性]

- ◇ 生徒・保護者が必要な情報にもとづいた適切な高校選択を行うために、中学校では、生徒・保護者に対して、現在行われているきめの細かい進路指導と丁寧な制度説明を、高校では、中学校・生徒・保護者を対象とした説明会等の開催を引き続き積極的に行うべきである。ただし、それぞれの教職員の過度な負担とならないよう、その方法については工夫するべきである。
- ◇ 複数志願選抜は、全体としてセーフティーネット機能を果たしており、第1志望加算点は、生徒の第1志望を優先するという制度趣旨に基づいたものであることから、当面は現在の制度を維持する必要があるが、第1志望加算点や実技検査の妥当性については、引き続き学区ごとの状況を踏まえて検証するべきである。
- ◇ 県全体では、私学を含めたセーフティーネット機能が働いていることを認識した上で、入試制度のあり方等の検討については、公私協調にもとづき進めるべきである。

#### [中長期的な方向性]

- ◇ 単独選抜の専門学科から複数志願選抜の高校への第1志望の変更を可能としていることについては、より適切な進路選択となるよう、制度の改善を検討する必要がある。ただし、通学可能な範囲の中で複数校に志願することが難しい生徒もいることを考慮するべきである。
- ◇ 多数の高校を対象とした複数志願選抜を実施するにあたり、採点を含む入試事務等が増加しているが、今後、国の高大接続改革の動向を注視しつつ、検査出題内容の在り方を検討するべきである。
- ◇ 今後更なる通学区域の再編を検討する場合には、各学区の管理校の入試事務量の増大を勘案し、複数志願選抜の在り方もあわせて検討するべきである。

## 高等学校通学区域検証委員会審議経過

回	日 程	会 場	主な内容
第 1 回	6 / 2	県民会館	<p>[開会行事] ①委員長、副委員長の選出 ②委員会の公開・非公開について</p> <p>[資料説明] 通学区域の再編について ①生徒の流動状況について ②通学費・時間の負担について ③高校と地域との関係について 複数志願選抜制度の改善について ①生徒の志願状況について ②志願のあり方について</p> <p>[協 議] 通学区域の再編について及び複数志願選抜制度の改善 について（自由討議）</p>
第 2 回	9 / 7	県民会館	<p>[資料説明] 委員からの意見の集約について 高等学校長アンケートについて</p> <p>[協 議] 第1回における協議を踏まえてまとめた報告書（素案） について</p>
第 3 回	11/24	県民会館	<p>[協 議] 第2回における協議を踏まえてまとめた報告書（案） について</p>

## 高等学校通学区域検証委員会設置要綱

### (設置)

第1条 平成27年度入学者選抜に再編した通学区域と、同年度から全県に導入した複数志願選抜による生徒の動向等の評価・検証を行うとともに、今後の通学区域等の方向性を検討するため、高等学校通学区域検証委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (所掌事項)

第2条 委員会は、次の事項を所掌する。

- (1) 通学区域及び複数志願選抜による生徒の動向等の評価・検証に関すること
- (2) 今後の通学区域及び複数志願選抜の方向性の検討に関すること

### (委員)

第3条 委員会は24名以内の委員で組織する。

- 2 委員は、教育又は教育行政に関し高い識見を有する者のうちから教育長が委嘱する。

### (委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選によって定め、副委員長は委員長が指名する。

- 2 委員長は会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

### (会議)

第5条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、高校教育課長が招集する。

- 2 委員は、事故その他のやむを得ない理由により会議に出席できないときには、あらかじめ委員長の承認を得て、代理人を出席させることができる。
- 3 委員長は必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、その意見を聞くことができる。

### (謝金)

第6条 委員が会議の職務に従事したときは、別に定めるところにより、謝金を支給する。ただし、県職員（学識経験者として就任する大学教育職の県職員を除く）及び県費負担教職員にあっては支給しない。

- 2 第5条第2項の規定に基づき、代理人が会議に出席したときは、代理人に対して委員と同額の謝金を支給する。

### (旅費)

第7条 委員が会議の職務を行うために、会議に出席したときは、別に定めるところにより、旅費を支給する。旅費の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和35年兵庫県条例第44号）に基づき支給する。ただし、県職員（学識経験者として就任する大学教育職の県職員を除く）及び県費負担教職員である委員については、当該職員の職務の扱いに基づく額とする。

- 2 第5条第2項の規定に基づき、代理人が出席したときは、代理人に対して旅費を支給する。この場合において、代理人の格付けは委員本人と同様とする。ただし、県の職員及び県費負担教職員である代理人については、当該職員の職務の級とする。

### (庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、高校教育課において行う。

### (補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は高校教育課長が別に定める。

### 附 則

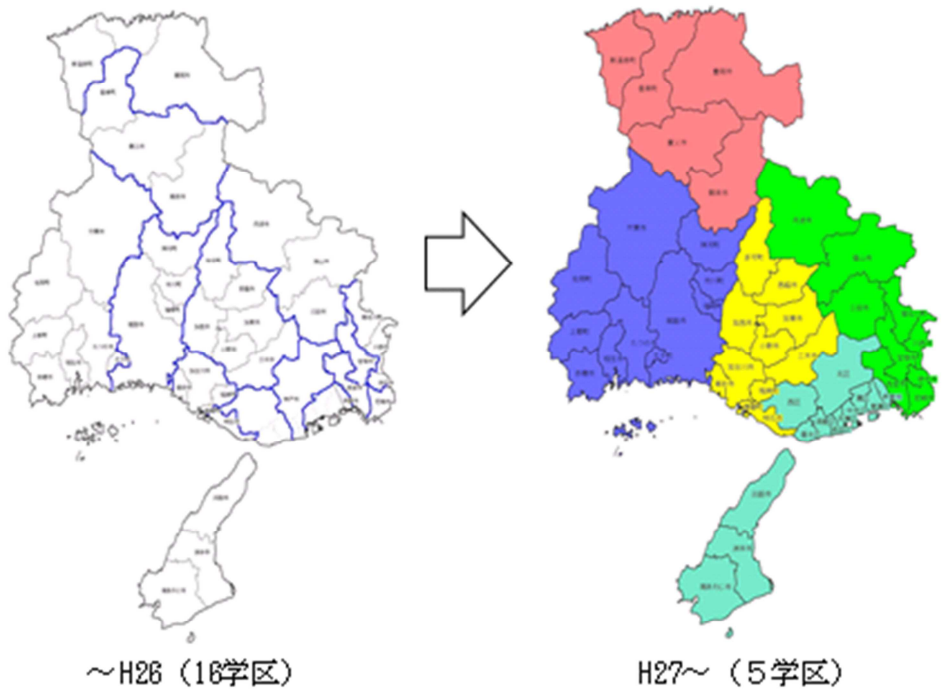
- 1 この要綱は、平成29年5月22日から施行する。
- 2 この要綱は、平成29年12月31日をもって効力を失う。

### 高等学校通学区域検証委員会委員

		委 員	備 考
学識者		◎長瀬 莊一（神戸女子短期大学・前学長）	
		○廣岡 徹（兵庫教育大学・元教授）	
学校関係者	高 校	富田 哲浩（県立兵庫高等学校長）	県立学校長協会代表 前第1学区管理委員長
		藤田 浩毅（県立夢野台高等学校長）	前第2学区管理委員長
		安本 直（県立加古川東高等学校長）	前第3学区管理委員長
		北峯 照之（県立龍野高等学校長）	第4学区管理委員長
		岡田 出（県立豊岡高等学校長）	前第5学区管理委員長
		中谷 安宏（県立尼崎小田高等学校長）	県立学校長協会高校入試委員会代表
		松田 克彦（姫路市立姫路高等学校長）	市立高等学校長会代表
		和田 孫博（灘中学高等学校長）	県私立高等学校代表
		山照 孝子（県立伊丹西高等学校主幹教諭）	県立高等学校教諭代表
	中 学	藪本 孝（神戸市立福田中学校長）	県中学校長会代表
		池田 容子（神戸市立太山寺中学校長）	県中学校長会進路指導対策委員会代表
		谷 宜憲（淡路市立岩屋中学校長）	第1学区代表
		佐々木 理（西宮市立鳴尾中学校長）	第2学区代表
		北谷 錦也（稲美町立稲美北中学校長）	第3学区代表
		稲葉 吉則（姫路市立東中学校長）	第4学区代表
		三好 和幸（朝来市立和田山中学校長）	第5学区代表
		柳 弘一郎（柳学園中学校長）	県私立中学校代表
		山中 浩路（西脇市立西脇中学校教諭）	中学校教諭代表
保護者	篠原 里美（県立神戸甲北高等学校PTA会長）	県立高等学校PTA連合会代表	
	高田貴美彦（県PTA協議会常務理事）	県PTA協議会代表	
事務局	清瀬 欣之（高校教育課長）		
	西田健次郎（義務教育課長）		

※ ◎…委員長、○…副委員長

### 通学区域の改編



### 学区別学校数（全日制普通科・総合学科）

旧通学区域	新通学区域
神戸第一・芦屋（6校）	第1学区（25校）
神戸第二（5校）	
神戸第三（10校）	
淡路（4校）	
尼崎（8校）	第2学区（34校）
西宮（8校）	
宝塚（4校）	
伊丹（8校）	
丹有（6校）	
明石（6校）	第3学区（24校）
加印（9校）	
北播（9校）	
姫路・福崎（14校）	第4学区（22校）
西播（8校）	
北但（5校）	第5学区（9校）
南但（4校）	
16学区	5学区（114校）

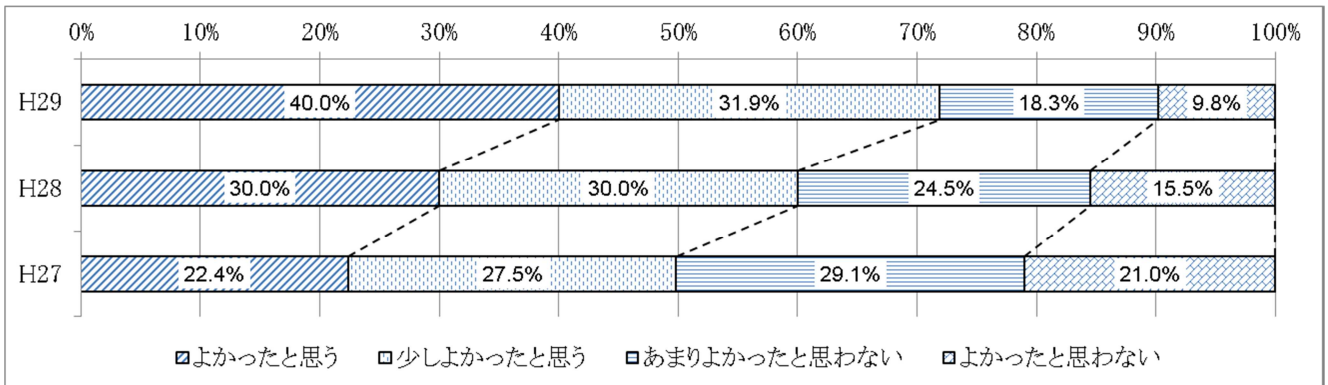
# 1 通学区域の再編について

## (1) 生徒の流動状況について

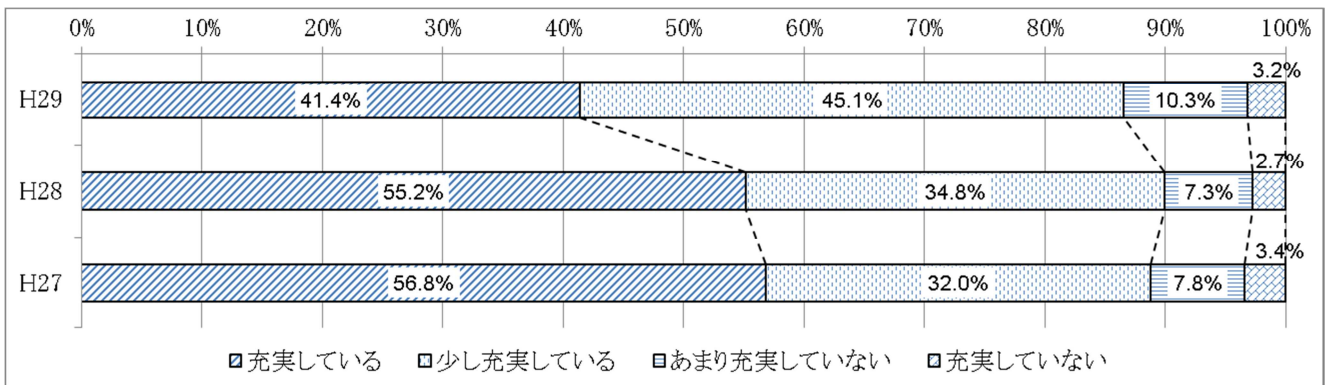
### ① 高校所在地別 受検者数及び合格者数とその割合（複数志願選抜）

高校の所在地	学力検査 募集定員	受検者数及び 合格者数		旧学区外からの受検者数及び合格者数とその割合					
				H29		H28		H27	
第1学区	5,256	受検者	5,999	938	15.6%	926	15.1%	730	11.9%
		合格者	5,256	779	14.8%	738	13.7%	598	10.9%
第2学区	7,087	受検者	7,913	1,439	18.2%	1,295	16.3%	1,095	13.6%
		合格者	7,084	1,221	17.2%	1,083	15.0%	926	12.8%
第3学区	4,799	受検者	5,141	747	14.5%	701	13.5%	752	14.1%
		合格者	4,765	642	13.5%	631	13.0%	651	13.2%
第4学区	3,429	受検者	3,679	425	11.6%	398	10.4%	344	9.2%
		合格者	3,400	347	10.2%	340	9.6%	313	8.8%
第5学区	781	受検者	733	41	5.6%	34	4.1%	25	3.1%
		合格者	732	40	5.5%	33	4.0%	25	3.1%
全 県	21,352	受検者	23,465	3,590	<b>15.3%</b>	3,354	<b>14.0%</b>	2,946	<b>12.3%</b>
		合格者	21,237	3,029	14.3%	2,825	13.0%	2,513	11.4%

### ② 高校選択拡大における生徒の意識（無回答を除く 以下同じ）



### ③ 「現在の高校生活が充実している」と感じている生徒



④ 複数志願選抜における合否等の状況

		第1学区	第2学区	第3学区	第4学区	第5学区	全 県
H29	定 員	5,256	7,087	4,799	3,429	781	21,352
	受検者	5,999	7,913	5,141	3,679	733	23,465
	倍 率	1.14	1.12	1.07	1.07	0.94	1.10
	合 格	5,256	7,084	4,765	3,400	732	21,237
	不合格	743	829	376	279	1	2,228
	不合格者の割合	12.4%	10.5%	7.3%	7.6%	0.1%	9.5%
H28	定 員	5,387	7,220	4,861	3,561	852	21,881
	受検者	6,124	7,965	5,193	3,832	823	23,937
	倍 率	1.14	1.10	1.07	1.08	0.97	1.09
	合 格	5,378	7,220	4,842	3,541	817	21,798
	不合格	746	745	351	291	6	2,139
	不合格者の割合	12.2%	9.4%	6.8%	7.6%	0.7%	8.9%
H27	定 員	5,537	7,273	4,957	3,600	862	22,229
	受検者	6,137	8,029	5,326	3,744	804	24,040
	倍 率	1.11	1.10	1.07	1.04	0.93	1.08
	合 格	5,508	7,244	4,930	3,566	800	22,048
	不合格	629	785	396	178	4	1,992
	不合格者の割合	10.2%	9.8%	7.4%	4.8%	0.5%	8.3%
H26	定 員	5,687	7,199	5,047	3,744	938	22,615
	受検者	6,498	7,949	5,402	3,995	896	24,740
	倍 率	1.14	1.10	1.07	1.07	0.96	1.09
	合 格	5,684	7,172	5,040	3,712	893	22,501
	不合格	814	777	362	283	3	2,239
	不合格者の割合	12.5%	9.8%	6.7%	7.1%	0.3%	9.1%

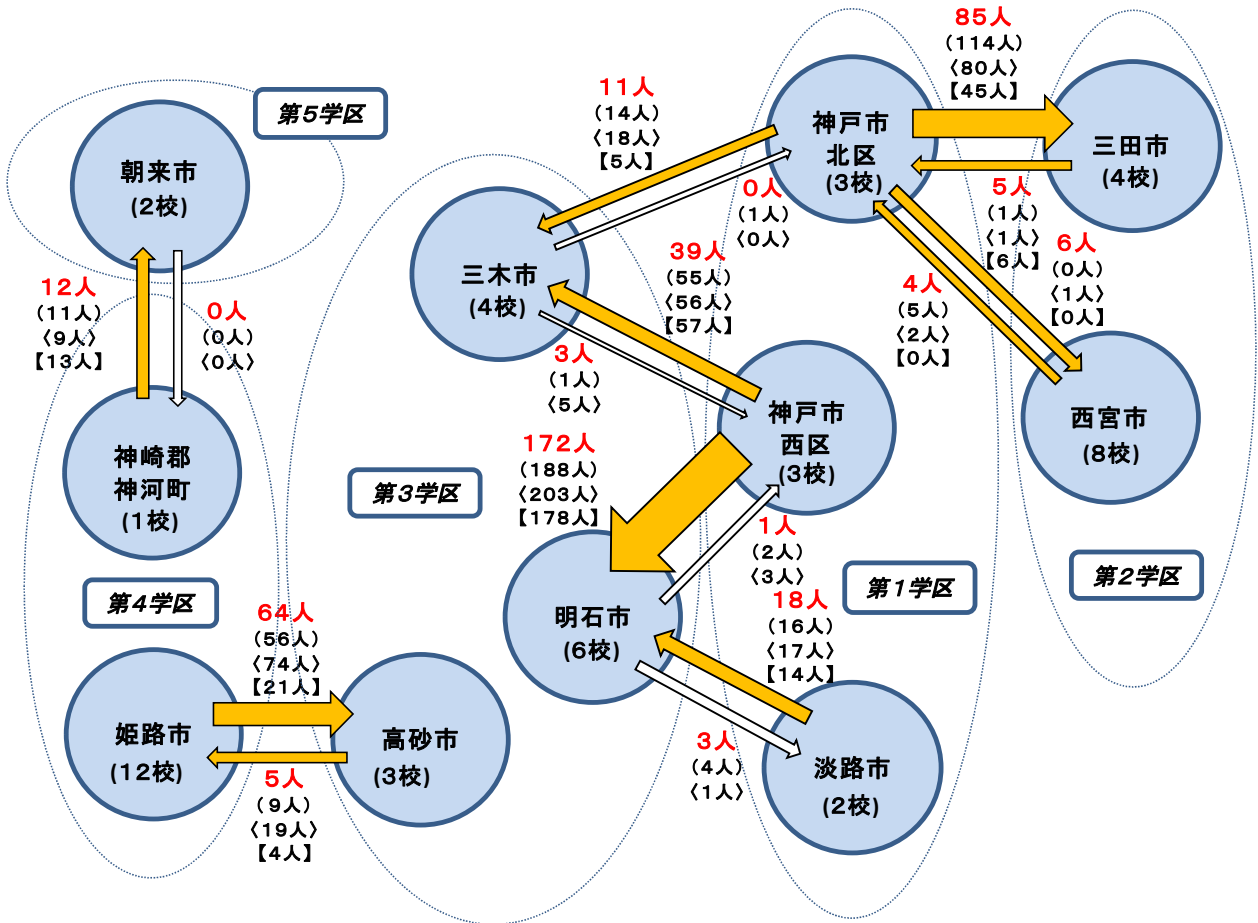
※H26 は、普通科（単位制を含む、氷上西・千種を含まない）＋総合学科

※倍率は、受検者÷定員



⑤ 隣接区域の移動状況

○複数志願選抜の隣接区域における合格者の動向



...H27以降、新たに受検可能となった隣接区域  
 ...H27以降、対象となる学校の範囲が拡大された隣接区域

( ) はH28年度選抜の隣接区域  
 < > はH27年度選抜の隣接区域  
 【 】はH26年度選抜の自由学区

※普通科+総合学科(3月)

学区	市区町	隣接市区町	H 2 9	H 2 8	(H29-H28)	H 2 7	H26(自由学区)
第1学区	神戸市北区	西宮市	4	5	△ 1	2	0
		三田市	5	1	4	1	6
		三木市	0	1	△ 1	0	
	神戸市西区	明石市	1	2	△ 1	3	
		三木市	3	1	2	5	
	淡路市	明石市	3	4	△ 1	1	
第2学区	西宮市	神戸市北区	6	0	6	1	0
	三田市	神戸市北区	85	114	△ 29	80	45
第3学区	明石市	神戸市西区	172	188	△ 16	203	178
		淡路市	18	16	2	17	14
	三木市	神戸市北区	11	14	△ 3	18	5
		神戸市西区	39	55	△ 16	56	57
	高砂市	姫路市	64	56	8	74	21
第4学区	姫路市	高砂市	5	9	△ 4	19	4
	神崎郡神河町	朝来市	0	0	0	0	
第5学区	朝来市	神崎郡神河町	12	11	1	9	13

※ 自由学区の例：北神戸中・大沢中・八多中・淡河中 → 県立北摂三田高校

⑥ 中学校長の意見（H29 年度）

- ◆旧学区以外の高校を含め、行きたいと思う高校への進学を希望する生徒が増えた。
- ◆オープン・ハイスクール等に参加して、高校の特色等に関する情報を得ようとする生徒が増えた。
- ◆中学校間や教師間での情報交換の機会が格段に増えた。
- ◆旧学区外の高校に関する情報収集も行い、高校の魅力・特色を踏まえて進路指導するようになった。
- ◆生徒一人一人の適性と高校の特色に応じた進路指導をするようになった。
- ◆キャリア教育を意識した進路指導に取り組むようになった。
- ◆高校からの資料送付や高校担当者の学校訪問により、情報を得る機会が増えた。
- ◇受検可能な高校が増えたことにより、生徒・保護者の情報収集に広く対応する必要がある。
- ◇生徒が行きたいと思う高校が増えても、学区の端にあり現実的に通学できない者もいる。

<第1学区>

中学校の所在地別 生徒の移動状況

H29年度			高校の所在地												合計	旧学区外へ						
			神戸第一・芦屋				神戸第二				神戸第三								淡路			
			隣接区域へ				西宮市				三田市								三木市			
中学校の所在地	神戸第一・芦屋	受検者	1,540	89.4%	81	4.7%	98	5.7%	4	0.2%					1,723	183	10.6%					
		合格者	1,240	89.7%	73	5.3%	65	4.7%	5	0.4%					1,383	143	10.3%					
	神戸第二	受検者	201	15.0%	836	62.5%	184	13.8%	0	0.0%	6	0.4%	96	7.2%	15	1.1%	1,338	502	37.5%			
		合格者	150	12.6%	778	65.4%	160	13.4%	0	0.0%	6	0.5%	85	7.1%	11	0.9%	1,190	412	34.6%			
	神戸第三	受検者	117	4.7%	194	7.7%	1,954	77.8%	6	0.2%					2,510	556	22.2%					
		合格者	87	3.9%	189	8.4%	1,757	78.1%	7	0.3%					2,251	494	21.9%					
	淡路	受検者	3	0.4%	6	0.9%	24	3.4%	648	92.4%					701	53	7.6%					
		合格者	3	0.4%	5	0.7%	19	2.8%	632	93.4%					677	45	6.6%					

H28年度			高校の所在地												合計	旧学区外へ						
			神戸第一・芦屋				神戸第二				神戸第三								淡路			
			隣接区域へ				西宮市				三田市								三木市			
中学校の所在地	神戸第一・芦屋	受検者	1,533	89.0%	107	6.2%	83	4.8%	0	0.0%					1,723	190	11.0%					
		合格者	1,298	91.3%	72	5.1%	52	3.7%	0	0.0%					1,422	124	8.7%					
	神戸第二	受検者	159	11.7%	868	64.0%	183	13.5%	1	0.1%	130	9.6%	14	1.0%					1,356	488	36.0%	
		合格者	136	11.4%	777	65.1%	152	12.7%	1	0.1%	0	0.0%	114	9.5%	14	1.2%					1,194	417
	神戸第三	受検者	112	4.1%	242	8.9%	2,091	77.1%	4	0.1%					2,713	622	22.9%					
		合格者	95	3.9%	192	8.0%	1,881	77.9%	4	0.2%					2,415	534	22.1%					
	淡路	受検者	2	0.3%	3	0.4%	15	2.2%	643	94.7%					679	36	5.3%					
		合格者	2	0.3%	3	0.5%	15	2.3%	629	94.6%					665	36	5.4%					

H27年度			高校の所在地												合計	旧学区外へ							
			神戸第一・芦屋				神戸第二				神戸第三								淡路				
			隣接区域へ				西宮市				三田市								三木市				明石市
中学校の所在地	神戸第一・芦屋	受検者	1,607	92.0%	76	4.4%	62	3.6%	1	0.1%					1,746	139	8.0%						
		合格者	1,344	93.7%	59	4.1%	31	2.2%	1	0.1%					1,435	91	6.3%						
	神戸第二	受検者	144	10.5%	942	69.0%	160	11.7%	0	0.0%	1	0.1%	99	7.3%	19	1.4%					1,365	423	31.0%
		合格者	118	9.6%	872	71.0%	140	11.4%	0	0.0%	1	0.1%	80	6.5%	18	1.5%					1,229	357	29.0%
	神戸第三	受検者	81	3.0%	171	6.4%	2,143	80.1%	7	0.3%					2,675	532	19.9%						
		合格者	60	2.4%	158	6.4%	1,997	80.4%	9	0.4%					2,483	486	19.6%						
	淡路	受検者	2	0.3%	0	0.0%	9	1.3%	642	95.7%					671	29	4.3%						
		合格者	2	0.3%	0	0.0%	8	1.2%	632	95.9%					659	27	4.1%						

進路選択に対する生徒の意識

	神戸第一・芦屋	神戸第二	神戸第三	淡路
①よかったと思う	42.3%	48.6%	47.8%	41.2%
②少しよかったと思う	29.0%	32.2%	31.8%	39.0%
③あまりよかったと思わない	18.2%	13.4%	14.2%	14.6%
④よかったと思わない	10.5%	5.8%	6.3%	5.2%
H29 ①+②	71.2%	80.8%	79.6%	80.2%
H28 ①+②	62.5%	69.5%	68.2%	71.9%
H27 ①+②	54.8%	57.8%	55.2%	54.5%

<第2学区>

中学校の所在地別 生徒の移動状況

H29年度			高校の所在地										合計	旧学区外へ			
			尼崎		伊丹		西宮		宝塚		丹有					隣接区域へ 神戸市北区	
中学校の所在地	尼崎	受検者	1,581	92.0%	38	2.2%	98	5.7%	1	0.1%	0	0.0%			1,718	137	8.0%
		合格者	1,248	91.6%	35	2.6%	79	5.8%	0	0.0%	0	0.0%			1,362	114	8.4%
	伊丹	受検者	281	14.2%	1,602	81.0%	21	1.1%	71	3.6%	3	0.2%			1,978	376	19.0%
		合格者	234	12.4%	1,560	82.6%	19	1.0%	73	3.9%	2	0.1%			1,888	328	17.4%
	西宮	受検者	158	7.7%	30	1.5%	1,630	79.5%	175	8.5%	53	2.6%	4	0.2%	2,050	420	20.5%
		合格者	108	6.0%	28	1.6%	1,442	80.2%	178	9.9%	37	2.1%	4	0.2%	1,797	355	19.8%
	宝塚	受検者	53	4.8%	223	20.2%	91	8.3%	724	65.7%	11	1.0%			1,102	378	34.3%
		合格者	39	3.7%	192	18.3%	74	7.1%	737	70.3%	7	0.7%			1,049	312	29.7%
	丹有	受検者	15	1.7%	4	0.5%	1	0.1%	10	1.1%	851	95.8%	7	0.8%	888	37	4.2%
		合格者	11	1.3%	2	0.2%	1	0.1%	11	1.3%	808	96.4%	5	0.6%	838	30	3.6%

H28年度			高校の所在地										合計	旧学区外へ			
			尼崎		伊丹		西宮		宝塚		丹有					隣接区域へ 神戸市北区	
中学校の所在地	尼崎	受検者	1,531	92.3%	33	2.0%	91	5.5%	4	0.2%	0	0.0%			1,659	128	7.7%
		合格者	1,325	92.7%	30	2.1%	71	5.0%	3	0.2%	0	0.0%			1,429	104	7.3%
	伊丹	受検者	227	11.3%	1,703	84.6%	22	1.1%	59	2.9%	2	0.1%			2,013	310	15.4%
		合格者	177	9.4%	1,612	85.7%	15	0.8%	75	4.0%	2	0.1%			1,881	269	14.3%
	西宮	受検者	149	7.2%	38	1.8%	1,668	80.3%	185	8.9%	33	1.6%	5	0.2%	2,078	410	19.7%
		合格者	121	6.5%	24	1.3%	1,526	81.4%	171	9.1%	28	1.5%	5	0.3%	1,875	349	18.6%
	宝塚	受検者	30	2.8%	189	17.7%	58	5.4%	780	73.0%	12	1.1%			1,069	289	27.0%
		合格者	16	1.7%	160	16.5%	43	4.4%	741	76.5%	9	0.9%			969	228	23.5%
	丹有	受検者	8	0.8%	2	0.2%	4	0.4%	18	1.9%	917	96.5%	1	0.1%	950	33	3.5%
		合格者	3	0.3%	1	0.1%	1	0.1%	19	2.1%	871	97.2%	1	0.1%	896	25	2.8%

H27年度			高校の所在地										合計	旧学区外へ			
			尼崎		伊丹		西宮		宝塚		丹有					隣接区域へ 神戸市北区	
中学校の所在地	尼崎	受検者	1,571	93.7%	22	1.3%	81	4.8%	3	0.2%	0	0.0%			1,677	106	6.3%
		合格者	1,307	94.1%	16	1.2%	62	4.5%	4	0.3%	0	0.0%			1,389	82	5.9%
	伊丹	受検者	188	9.1%	1,829	88.1%	17	0.8%	41	2.0%	2	0.1%			2,077	248	11.9%
		合格者	161	8.2%	1,738	88.7%	12	0.6%	46	2.3%	2	0.1%			1,959	221	11.3%
	西宮	受検者	144	7.1%	28	1.4%	1,677	82.8%	146	7.2%	28	1.4%	2	0.1%	2,025	348	17.2%
		合格者	107	6.0%	22	1.2%	1,492	83.0%	154	8.6%	20	1.1%	2	0.1%	1,797	305	17.0%
	宝塚	受検者	54	5.0%	141	13.2%	69	6.4%	796	74.4%	10	0.9%			1,070	274	25.6%
		合格者	39	3.8%	124	12.2%	48	4.7%	798	78.6%	6	0.6%			1,015	217	21.4%
	丹有	受検者	8	0.8%	5	0.5%	1	0.1%	7	0.7%	981	97.6%	3	0.3%	1,005	24	2.4%
		合格者	7	0.7%	2	0.2%	1	0.1%	12	1.3%	921	97.6%	1	0.1%	944	23	2.4%

進路選択に対する生徒の意識

	尼崎	伊丹	西宮	宝塚	丹有
①よかったと思う	31.0%	43.4%	34.8%	46.2%	37.8%
②少しよかったと思う	25.8%	31.8%	29.3%	32.5%	32.1%
③あまりよかったと思わない	24.1%	15.7%	22.5%	14.7%	20.0%
④よかったと思わない	19.1%	9.1%	13.4%	6.7%	10.0%
H29 ①+②	56.8%	75.3%	64.1%	78.7%	70.0%
H28 ①+②	48.6%	61.9%	51.9%	69.6%	57.1%
H27 ①+②	46.6%	48.7%	43.1%	67.1%	45.6%

<第3学区>

中学校の所在地別 生徒の移動状況

H29年度		高校の所在地										合計	旧学区外へ					
		明石		加印		北播		隣接区域へ										
								神戸市西区	神戸市北区	淡路市	姫路市							
中学校の所在地	明石	受検者	1,257	89.0%	148	10.5%	1	0.1%	3	0.2%		3	0.2%		1,412	155	11.0%	
		合格者	1,181	91.3%	108	8.3%	1	0.1%	1	0.1%		3	0.2%		1,294	113	8.7%	
	加印	受検者	208	10.0%	1,839	88.7%	12	0.6%						14	0.7%	2,073	234	11.3%
		合格者	193	10.3%	1,667	88.8%	12	0.6%						5	0.3%	1,877	210	11.2%
	北播	受検者	5	0.4%	24	1.9%	1,208	97.4%	3	0.2%	0	0.0%			1,240	32	2.6%	
		合格者	4	0.3%	20	1.6%	1,190	97.8%	3	0.2%	0	0.0%			1,217	27	2.2%	

H28年度		高校の所在地										合計	旧学区外へ					
		明石		加印		北播		隣接区域へ										
								神戸市西区	神戸市北区	淡路市	姫路市							
中学校の所在地	明石	受検者	1,275	89.9%	136	9.6%	0	0.0%	3	0.2%		4	0.3%		1,418	143	10.1%	
		合格者	1,191	91.0%	112	8.6%	0	0.0%	2	0.2%		4	0.3%		1,309	118	9.0%	
	加印	受検者	188	9.2%	1,829	89.7%	6	0.3%						17	0.8%	2,040	211	10.3%
		合格者	175	9.3%	1,694	89.9%	6	0.3%						9	0.5%	1,884	190	10.1%
	北播	受検者	3	0.2%	10	0.8%	1,312	98.9%	1	0.1%	1	0.1%			1,327	15	1.1%	
		合格者	1	0.1%	8	0.6%	1,254	99.1%	1	0.1%	1	0.1%			1,265	11	0.9%	

H27年度		高校の所在地										合計	旧学区外へ					
		明石		加印		北播		隣接区域へ										
								神戸市西区	神戸市北区	淡路市	姫路市							
中学校の所在地	明石	受検者	1,343	92.8%	97	6.7%	1	0.1%	4	0.3%		2	0.1%		1,447	104	7.2%	
		合格者	1,180	92.8%	87	6.8%	1	0.1%	3	0.2%		1	0.1%		1,272	92	7.2%	
	加印	受検者	228	11.2%	1,765	87.1%	15	0.7%						19	0.9%	2,027	262	12.9%
		合格者	167	8.8%	1,700	89.5%	13	0.7%						19	1.0%	1,899	199	10.5%
	北播	受検者	4	0.3%	11	0.8%	1,379	98.5%	5	0.4%	1	0.1%			1,400	21	1.5%	
		合格者	4	0.3%	11	0.8%	1,320	98.5%	5	0.4%	0	0.0%			1,340	20	1.5%	

進路選択に対する生徒の意識

	明石	加印	北播
①よかったと思う	37.5%	37.9%	43.4%
②少しよかったと思う	31.3%	30.5%	36.0%
③あまりよかったと思わない	21.0%	20.2%	14.0%
④よかったと思わない	10.2%	11.4%	6.6%
H29 ①+②	<b>68.8%</b>	<b>68.4%</b>	<b>79.4%</b>
H28 ①+②	55.1%	60.9%	64.4%
H27 ①+②	48.0%	51.8%	50.3%

<第4学区>

中学校の所在地別 生徒の移動状況

H29年度			高校の所在地								合計	旧学区外へ	
			姫路・福崎		西播		隣接区域へ						
							高砂市		朝来市				
中学校の所在地	姫路・福崎	受検者	2,161	86.2%	260	10.4%	75	3.0%	12	0.5%	2,508	347	13.8%
		合格者	1,994	87.2%	218	9.5%	64	2.8%	12	0.5%	2,288	294	12.8%
	西播	受検者	151	12.3%	1,075	87.7%					1,226	151	12.3%
		合格者	124	10.6%	1,044	89.4%					1,168	124	10.6%

H28年度			高校の所在地								合計	旧学区外へ	
			姫路・福崎		西播		隣接区域へ						
							高砂市		朝来市				
中学校の所在地	姫路・福崎	受検者	2,357	88.1%	242	9.0%	64	2.4%	12	0.4%	2,675	318	11.9%
		合格者	2,141	88.3%	218	9.0%	56	2.3%	11	0.5%	2,426	285	11.7%
	西播	受検者	139	11.6%	1,060	88.4%					1,199	139	11.6%
		合格者	113	9.7%	1,046	90.3%					1,159	113	9.7%

H27年度			高校の所在地								合計	旧学区外へ	
			姫路・福崎		西播		隣接区域へ						
							高砂市		朝来市				
中学校の所在地	姫路・福崎	受検者	2,198	88.1%	203	8.1%	86	3.4%	9	0.4%	2,496	298	11.9%
		合格者	2,110	89.0%	179	7.5%	74	3.1%	9	0.4%	2,372	262	11.0%
	西播	受検者	122	9.4%	1,181	90.6%					1,303	122	9.4%
		合格者	115	9.3%	1,126	90.7%					1,241	115	9.3%

進路選択に対する生徒の意識

	姫路・福崎	西播
①よかったと思う	34.1%	41.4%
②少しよかったと思う	32.5%	34.2%
③あまりよかったと思わない	21.4%	16.5%
④よかったと思わない	12.0%	7.9%
H29 ①+②	<b>66.6%</b>	<b>75.6%</b>
H28 ①+②	48.4%	63.6%
H27 ①+②	36.5%	51.1%

<第5学区>

中学校の所在地別 生徒の移動状況

H29年度			高校の所在地					合計	旧学区外へ		
			北但		南但		隣接区域へ 神河町				
中学校の所在地	北但	受検者	421	95.2%	21	4.8%	/	442	21	4.8%	
		合格者	420	95.2%	21	4.8%		441	21	4.8%	
	南但	受検者	8	2.9%	271	97.1%	0	0.0%	279	8	2.9%
		合格者	7	2.5%	272	97.5%	0	0.0%	279	7	2.5%

H28年度			高校の所在地					合計	旧学区外へ		
			北但		南但		隣接区域へ 神河町				
中学校の所在地	北但	受検者	498	96.3%	19	3.7%	/	517	19	3.7%	
		合格者	493	96.3%	19	3.7%		512	19	3.7%	
	南但	受検者	3	1.0%	291	99.0%	0	0.0%	294	3	1.0%
		合格者	3	1.0%	291	99.0%	0	0.0%	294	3	1.0%

H27年度			高校の所在地					合計	旧学区外へ		
			北但		南但		隣接区域へ 神河町				
中学校の所在地	北但	受検者	488	98.0%	10	2.0%	/	498	10	2.0%	
		合格者	485	98.0%	10	2.0%		495	10	2.0%	
	南但	受検者	6	2.0%	291	98.0%	0	0.0%	297	6	2.0%
		合格者	6	2.0%	290	98.0%	0	0.0%	296	6	2.0%

進路選択に対する生徒の意識

	北但	南但
①よかったと思う	37.3%	38.8%
②少しよかったと思う	39.5%	41.3%
③あまりよかったと思わない	19.0%	15.4%
④よかったと思わない	4.2%	4.4%
H29 ①+②	76.8%	80.2%
H28 ①+②	62.7%	67.4%
H27 ①+②	52.7%	57.9%

### 進学連携中学校以外の合格者数の割合

旧学区	高校	合格者数計	進学連携中学校以外合格者数	募集定員	募集定員に対する進学連携中学校以外の合格者数の割合		
					H29	H28(参考)	H27(参考)
北但	豊岡	160	23	160	14.4%	14.4%	13.8%
	出石	68	1	68	1.5%	0.0%	0.0%
	浜坂	68	2	68	2.9%	7.4%	10.0%
	香住	71	8	80	10.0%	11.3%	8.8%
南但	村岡	37	1	52	1.9%	4.3%	6.4%
	八鹿	160	23	160	14.4%	12.5%	13.8%
	生野	32	2	40	5.0%	2.5%	0.0%

### <参考>進学連携校方式

但馬地域の全日制普通科高校においては、交通事情等を鑑みて、近隣地域の進学連携中学校からの者を一定以上とする進学連携校方式を設けている。これまで、各高校の学力検査における募集定員に対して、連携中学校以外の中学校からの合格者の割合を、旧北但学区では6%以内、旧南但学区では5%以内と設定していたが、平成27年度から18%以内に改めた。

高校	進学連携中学校
豊岡	豊岡南、豊岡北、港、日高東、日高西、城崎、竹野、森本
出石	出石、但東、日高東、日高西、豊岡南、豊岡北
浜坂	浜坂、夢が丘
香住	香住第一、香住第二、竹野、村岡（香美町村岡区のうち長瀬、山田、小城及び境の区域）
村岡	村岡、小代、関宮
八鹿	八鹿青溪、養父、大屋、関宮、和田山、梁瀬
生野	生野、朝来、和田山、梁瀬、神河（隣接区域の中学校）



(2) 通学費・時間の負担について

① 通学時間の变化

2時間以上の通学時間を要する生徒数 9人 (H28 10人、H27 16人)

通学時間	H29人数	H29割合	H28割合	H27割合
①15分未満 (寮を含む)	3,601	11.04%	12.23%	13.36%
②15分以上30分未満	9,755	29.91%	29.29%	28.17%
③30分以上45分未満	9,061	27.79%	25.38%	24.49%
④45分以上1時間未満	5,724	17.55%	18.22%	17.90%
⑤1時間以上1時間15分未満	2,794	8.57%	9.06%	9.56%
⑥1時間15分以上1時間30分未満	1,036	3.18%	3.52%	4.01%
⑦1時間30分以上1時間45分未満	501	1.54%	1.75%	1.86%
⑧1時間45分以上2時間未満	130	0.40%	0.52%	0.60%
⑨2時間以上	9	0.03%	0.03%	0.05%
無回答	380			
合計	32,991			

うち、複数志願選抜制度で入学した生徒数 1人 (H28 2人、H27 3人)

通学時間	H29人数	H29割合
①15分未満(寮を含む)	2,251	11.187%
②15分以上30分未満	6,319	31.403%
③30分以上45分未満	5,808	28.864%
④45分以上1時間未満	3,469	17.240%
⑤1時間以上1時間15分未満	1,513	7.519%
⑥1時間15分以上1時間30分未満	483	2.400%
⑦1時間30分以上1時間45分未満	217	1.078%
⑧1時間45分以上2時間未満	61	0.303%
⑨2時間以上	1	0.005%
無回答	223	
合計	20,345	

② 通学費補助の申請状況

- ・高等学校奨学資金貸与制度 (平成27年度高等学校入学生より)

通学定期券の月額 (月額換算後)	額
10,000円以上 15,000円未満	5,000円
15,000円以上 20,000円未満	10,000円
20,000円以上 25,000円未満	15,000円
25,000円以上 30,000円未満	20,000円
30,000円以上 35,000円未満	25,000円
35,000円以上 40,000円未満	30,000円
40,000円以上 45,000円未満	35,000円
45,000円以上 50,000円未満	40,000円
50,000円以上	45,000円

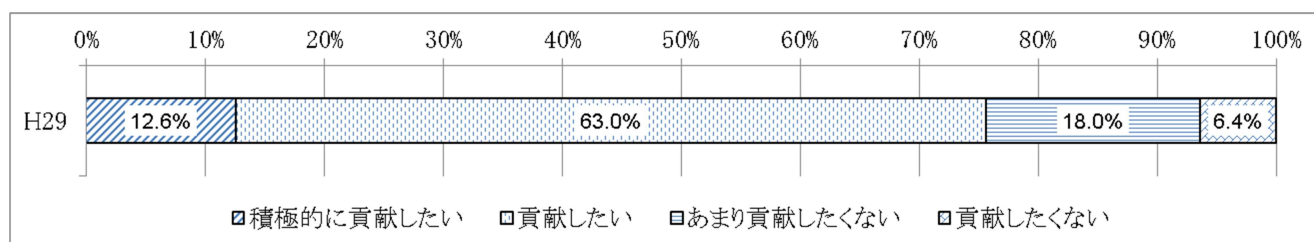
※ 上記制度により限度額の貸与を受けている生徒について  
平成29年度 2名 (県立1名、私立1名)

### (3) 高校と地域との関係について

#### ① 高校生ふるさと貢献活動事業～トライやるワーク～の参加状況

年度	H28	H27	H26	H25	H24
目標値 (%)	100.0	100.0	95.0	90.0	85.0
実績 (%)	96.7	94.1	93.9	93.5	86.7

#### ② 地域に貢献したいと考える高校生の割合 (H29 高校生アンケート)



#### <参考> 地域連携を推進する事業

- ・ 高校生ふるさと貢献活動事業
- ・ 高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～
- ・ 高等学校探究活動推進事業
- ・ 県立高校で考える県政 150 周年記念事業
- ・ 県立高校特色づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～
- ・ 社会参画推進学習プログラム研究事業

## 2 複数志願選抜制度の改善について

### (1) 生徒の志願状況について

#### ① 複数志願選抜における合否等の状況（再掲）

		第1学区	第2学区	第3学区	第4学区	第5学区	全 県
H29	定 員	5,256	7,087	4,799	3,429	781	21,352
	受検者	5,999	7,913	5,141	3,679	733	23,465
	倍 率	1.14	1.12	1.07	1.07	0.94	1.10
	合 格	5,256	7,084	4,765	3,400	732	21,237
	不合格	743	829	376	279	1	2,228
	不合格者の割合	12.4%	10.5%	7.3%	7.6%	0.1%	9.5%
H28	定 員	5,387	7,220	4,861	3,561	852	21,881
	受検者	6,124	7,965	5,193	3,832	823	23,937
	倍 率	1.14	1.10	1.07	1.08	0.97	1.09
	合 格	5,378	7,220	4,842	3,541	817	21,798
	不合格	746	745	351	291	6	2,139
	不合格者の割合	12.2%	9.4%	6.8%	7.6%	0.7%	8.9%
H27	定 員	5,537	7,273	4,957	3,600	862	22,229
	受検者	6,137	8,029	5,326	3,744	804	24,040
	倍 率	1.11	1.10	1.07	1.04	0.93	1.08
	合 格	5,508	7,244	4,930	3,566	800	22,048
	不合格	629	785	396	178	4	1,992
	不合格者の割合	10.2%	9.8%	7.4%	4.8%	0.5%	8.3%
H26	定 員	5,687	7,199	5,047	3,744	938	22,615
	受検者	6,498	7,949	5,402	3,995	896	24,740
	倍 率	1.14	1.10	1.07	1.07	0.96	1.09
	合 格	5,684	7,172	5,040	3,712	893	22,501
	不合格	814	777	362	283	3	2,239
	不合格者の割合	12.5%	9.8%	6.7%	7.1%	0.3%	9.1%

※H26 は、普通科（単位制を含む、氷上西・千種を含まない）＋総合学科

※倍率は、受検者÷定員

#### ② 志望ごとの合格者数

学区	志願	H29		H28		H27		H26		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	(第2＋その他)
第1学区	第1志望合格	4,760	<b>90.6%</b>	4,828	<b>89.7%</b>	5,087	<b>92.4%</b>	3,839	<b>93.9%</b>	
	第2志望合格	496	<b>9.4%</b>	554	<b>10.3%</b>	421	<b>8.3%</b>	239	<b>5.8%</b>	<b>6.1%</b>
	その他校合格							12	<b>0.3%</b>	
第2学区	第1志望合格	6,305	<b>89.0%</b>	6,306	<b>87.3%</b>	6,453	<b>89.1%</b>	4,533	<b>83.1%</b>	
	第2志望合格	779	<b>11.0%</b>	914	<b>12.7%</b>	791	<b>10.9%</b>	823	<b>15.1%</b>	<b>16.9%</b>
	その他校合格							98	<b>1.8%</b>	
第3学区	第1志望合格	4,471	<b>93.8%</b>	4,548	<b>93.9%</b>	4,656	<b>94.4%</b>	4,210	<b>93.6%</b>	
	第2志望合格	294	<b>6.2%</b>	294	<b>6.1%</b>	274	<b>5.6%</b>	274	<b>6.1%</b>	<b>6.4%</b>
	その他校合格							16	<b>0.4%</b>	
第4学区	第1志望合格	3,153	<b>92.7%</b>	3,195	<b>90.2%</b>	3,339	<b>93.6%</b>	3,104	<b>93.7%</b>	
	第2志望合格	247	<b>7.3%</b>	346	<b>9.8%</b>	227	<b>6.4%</b>	205	<b>6.2%</b>	<b>6.3%</b>
	その他校合格							3	<b>0.1%</b>	
第5学区	第1志望合格	731	<b>99.9%</b>	814	<b>99.6%</b>	796	<b>99.5%</b>			
	第2志望合格	1	<b>0.1%</b>	3	<b>0.4%</b>	4	<b>0.5%</b>			
	その他校合格									
全 県	第1志望合格	19,420	<b>91.4%</b>	19,691	<b>90.3%</b>	20,331	<b>92.2%</b>	15,686	<b>90.4%</b>	
	第2志望合格	1,817	<b>8.6%</b>	2,111	<b>9.7%</b>	1,717	<b>7.8%</b>	1,541	<b>8.9%</b>	<b>9.6%</b>
	その他校合格							129	<b>0.7%</b>	

(2) 志願のあり方について

① 第1志望を志願変更した受検者の状況

志願変更パターン		H29	H28	H27
単独選抜（職業学科等）	→単独選抜（職業学科等）	128	167	151
単独選抜（職業学科等）	→複数志願（普通科・総合学科）	56	54	84
複数志願（普通科・総合学科）	→単独選抜（職業学科等）	50	67	89
合計		234	288	324

② 第2志望を志願変更した受検者の状況（合格状況を含む）

		H29		H28		H27	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
合格	第1志望合格	194	65.5%	221	66.0%	422	74.8%
	第2志望合格	55	18.6%	74	22.1%	93	16.5%
不合格	第2志望不合格	36	12.2%	34	10.1%	42	7.4%
	第2志望なし	11	3.7%	6	1.8%	7	1.2%
第2志望変更者計		296	1.3%	335	1.4%	564	2.3%
受検者計		23,465		23,964		24,083	

<参考> 選抜制度の概要

旧制度		新制度
<p><b>【出願方法】</b> 第1志望+第2志望+その他校 から希望</p> <p><b>【志願変更】</b> 複数志願選抜実施校内での志願変更は認めない。</p>	➡	<p>第1志望+第2志望 から希望</p> <p>第2志望の志願変更を認める。</p>